

静岡市立玉川小中学校 古代体験授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和3年4月20日（火）

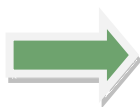
今年度、最初の出前授業は玉川小中学校から



いよいよ今年度も出前授業が始まりました。
今年度も新型コロナウイルスの影響が続く中、4月20日（火）の静岡市立玉川小中学校が最初の出前授業でした。新緑が美しく、鳥のさえずりが聞こえる自然豊かな学校を訪ねました。当日は、ソーシャルディスタンスを保ちながら「土器の分類」「火起こし」の古代の人々の生活の一部を体験しました。

歴史学習の始まりに、本物の土器に触れ、火起こしを体験することを通して古代の人々の暮らしに触れ、これからの学習に関心をもって取り組んでくれることを期待しています。

◎土器分類体験◎



縄文・弥生・古墳時代の土器についての説明を受けた後、本物の土器片を二人で分類してみました。それぞれの時代の土器の特徴や違いを実際に手で触れながら選別分類に挑戦しました。最後に残った4つの土器片が弥生土器なのか須恵器なのかでとても悩んでいましたが、説明を聞いたら納得して分類することができました。

◎火起こし体験◎



最初は、なかなか火が付きません。火を起こすことがこんなに大変だとは思わなかったようです。しかし、根気よくひきり弓を押してはずみ車を回し、火種をつくりスプーンですくい、火口に火種を乗せた後、しばらく息を吹き続け火を起こすことができました。煙が目にしみてつらかったけれど、昔の人々の苦労や工夫を感じることができました。私たち人類は、火を使うことと土器を作ったことで、食物を保存したり、煮たり焼いたりして食物をおいしく食べることもできるようになったことを実感しました。